

**新規事業「介護福祉人材サービス事業」
の開始について**

介護福祉人材サービス事業について

現在弊社のメイン事業となっているITアウトソーシング事業はシステムエンジニアリングサービス事業(以下SES事業)が中心ですが、それ以外にも人材領域に関する事業を複数展開しています

その中でSES事業とは別に、介護・福祉業界の人材不足という社会的課題の解決の一助となる介護派遣を中心に、紹介・紹介予定派遣を含めた介護福祉人材サービスを展開しております
今後は、SES事業と分けて、介護福祉人材サービス事業の業績も公表していきます

なぜ介護福祉人材サービス事業をやるの？

介護保険制度がスタートして以降、介護業界市場は伸び続けており、厚生労働省によると、2023年度の介護費用は11兆5,139億と過去最大を更新しています。2022年度と比較して、1年間で3,227億円(2.9%)増加しております*1

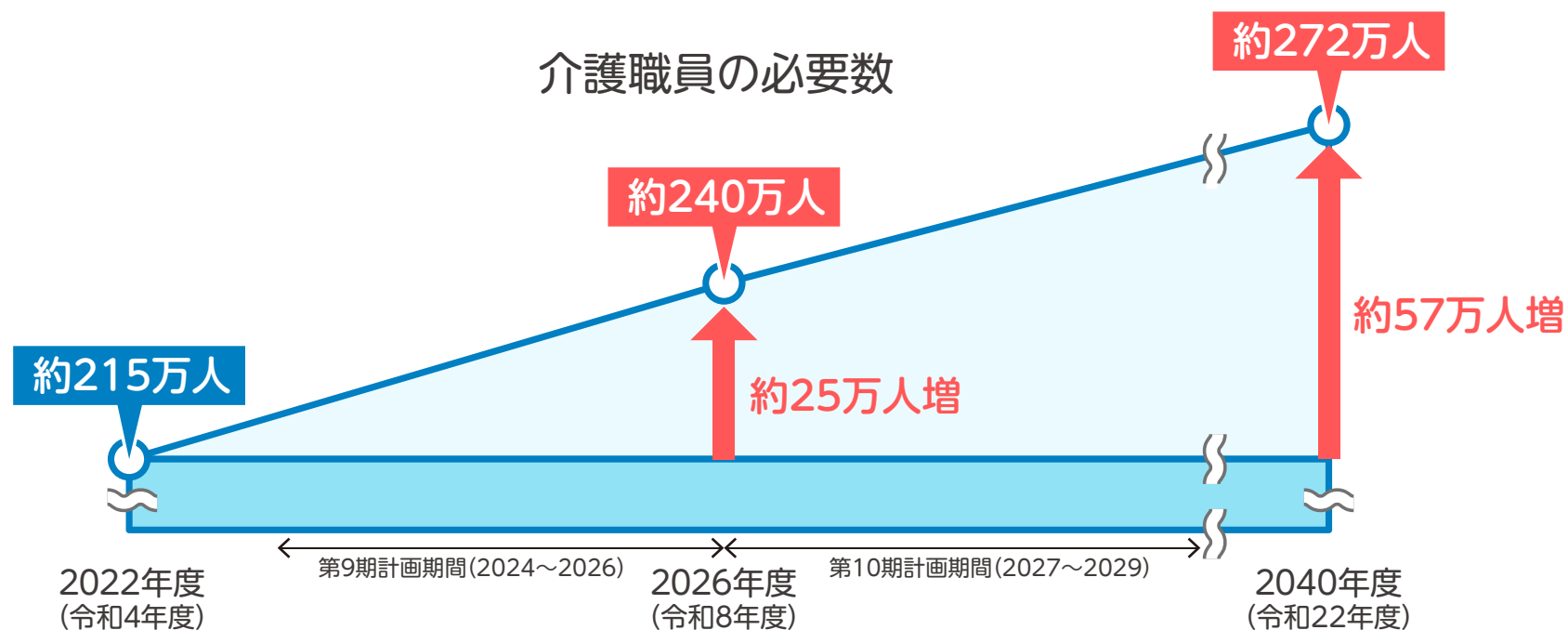
そして、介護福祉業界は、急速に進む少子高齢化社会において需要が爆発的に伸びており、2037年に日本の高齢化率は33%を超えると予想され、今後も増え続ける見込みです*2

*1 厚生労働省「令和5年度 介護給付費当実態統計の概況」より

*2 内閣府「令和6年版高齢化社会白書」より

なぜ介護福祉人材サービス事業をやるの？

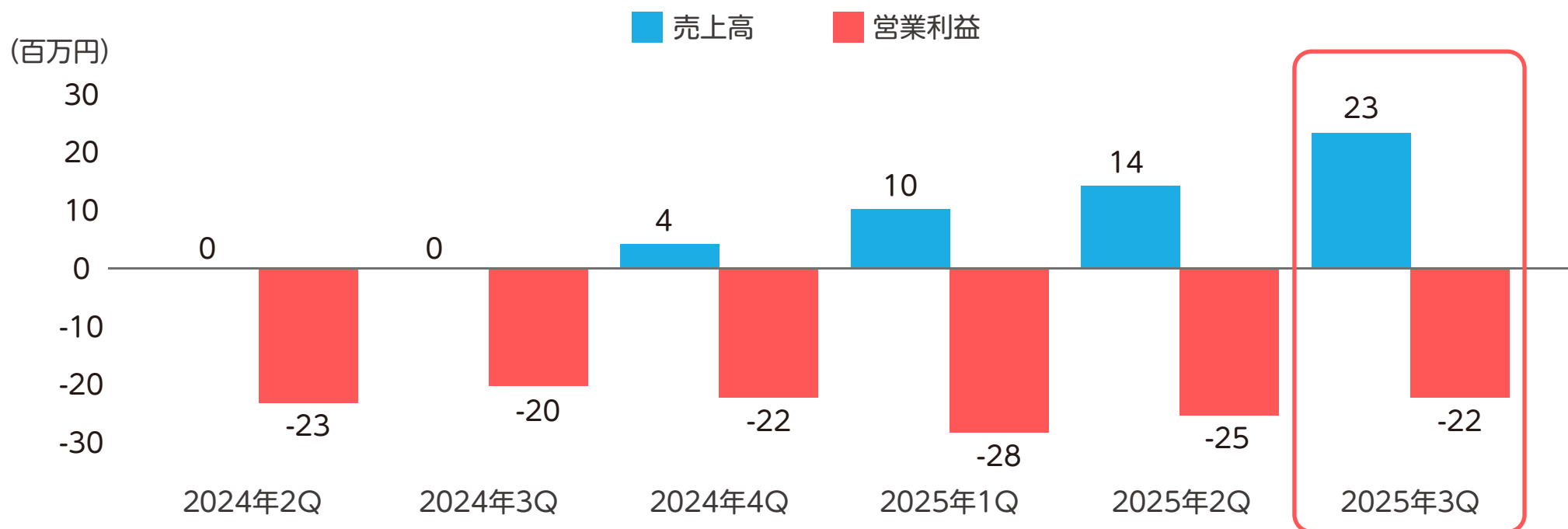
このような中で、介護業界は深刻な人材不足が続いており2022年度時点の約215万人と比較して、2026年度に約240万人2040年度には約272万人の介護職員が必要になると言われています*³。このように少子高齢化社会が進むにつれて、介護福祉サービスの需要は増加し続けることが予測されます



*3 厚生労働省「第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」より

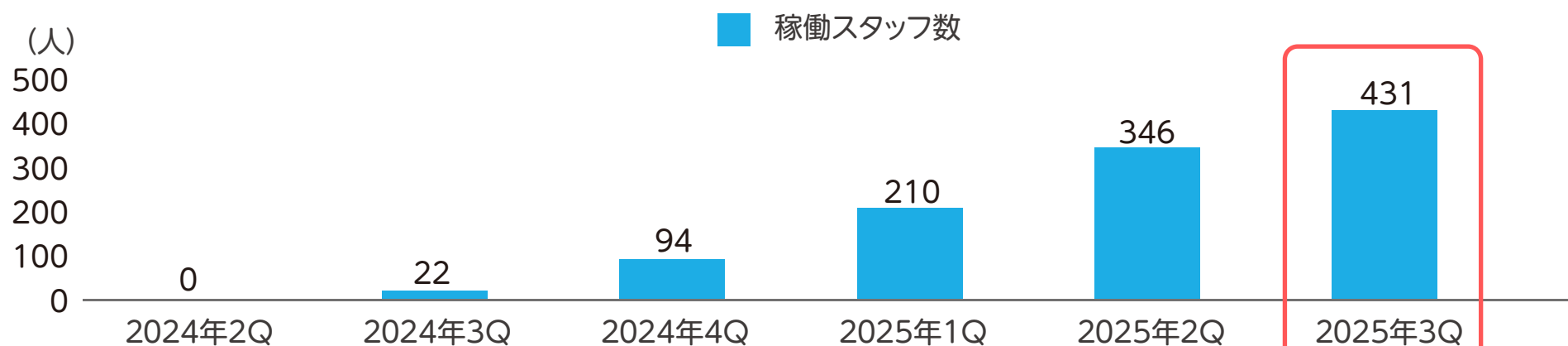
介護福祉人材サービス事業の業績推移（実績）

介護福祉人材サービス事業は、直近2025年3月期3Qの売上が23百万円まで立ち上がっています。現時点では売上規模感は小さく先行投資フェーズで赤字ですが、将来的にはSES事業に並ぶ規模の事業に成長するポテンシャルを感じており積極的に投資を実行しております



介護福祉人材サービス事業の重要 KPI 推移（実績）

介護福祉人材サービス事業の売上を構成する重要KPIは、介護施設における派遣稼働スタッフ数です。直近2025年3月期3Qの稼働スタッフ数は431人で、前年同Qの22人と比較して19.5倍の人数に成長しています



※稼働スタッフ数の増加ペースが一定ではなく、直近鈍化しているように見えますが今期は様々な手法を試しながら効果検証を行っており、時期によって予算を絞りながら試行していたため、成長が鈍化している訳ではありません

介護福祉人材サービス事業の重要 KPI 推移（実績）

今期(2025年3月期)は採用への投資を抑制し、今後伸ばせるかどうかの検証を行っていましたが、検証の結果、応募単価や離職率等の主要目標を達成しており、採用費の投資額を増やしても同様の成果を出せる見込みとなったことから、来期はさらに積極投資し、稼働スタッフ数をより早いペースで増やす見込みです

介護福祉人材サービス事業への投資について

前述した通り、介護福祉人材サービス事業は、現状まだ黒字化には至っていませんが、事業開始から実質わずか1年ながらも売上や主要KPIの数字が着実に伸びており、立ち上がりも好調で、将来的にSES事業のようになる期待を持っています

来期(2026年3月期)はさらに投資を加速させていくので、一時的に介護福祉人材サービス事業の赤字幅は増える予定ですが、2027年3月期に黒字化することを目標としています。また来期一時的に増える赤字幅についても、SES事業の黒字で吸収できる見込みとなっており、SES事業及び介護福祉人材サービス事業を合算した全体感としては、通期で黒字となる見通しです

2027年3月期に介護福祉人材サービス事業も黒字化することで営業利益を積み重ね、全社の営業利益の底上げを図っていきます